

日本では16人に1人がかかるといわれる乳がん。治療率を高めるには「早期発見」が基本です。今回は検出した極小がんをたたく「BAK療法」についてご説明します。



宇都宮セントラルクリニック理事・放射線科医 佐藤俊彦氏

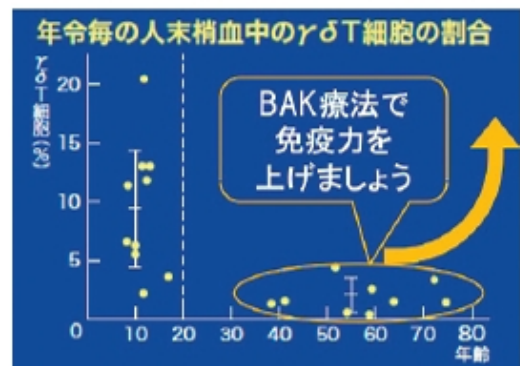
・セントラルメディカル倶楽部顧問医  
・野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長

■主な著書  
『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』（幻冬舎）、他多数

テーマ 見えないガンをたたく ～BAK療法～

前回、見えないガンをたたく免疫治療は、このようにケースで非常によく有効です。20歳までは、γδT細胞（ガムスキヤン）が非常にたくさん存在するのですが、成人以降は急速に減少します。従って、若い時と同じようにγδT細胞を実験室で培養して戻すことができれば、免疫能を高めることができます。この治療法がBAK療法です。当院では、副作用がなく、がん

がんを検出して、このBAK療法による治療を実践しています。また、がんの術後にテロメスキヤン陽性の患者さんにも、標準的治療との併用を積極的にお勧めしています。



次回は9月18日掲載予定です。

乳がん検診実施中

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック

宇都宮市屋板町 561 - 3

☎ 028・657・5215

<http://www.ucc.or.jp>

宇都宮セントラルクリニック 検索

PR